

# 日本語の習得における翻訳の問題点

## －誤用と誤訳の立場から－

浙江財経大学 方 小 贇

**要旨：**中国人学習者にとって母語は日本語の習得を根強く干渉し続けるものである。母語の負の転移は誤用を誘発する原因になっている。そのため、本稿は中国人学習者にとって誤用が発生しやすい「母語の負の転移、中国語“一”の翻訳、日本語類義語の使い分け、多義語の扱い」などにわたって分析を行った。考察結果から、日本語そのものの要因や母語である中国語の負の転移などが誤用につながりやすいことが分かった。今後の日本語教育では、それらを意識しながら指導していくべきである。

### 1. はじめに

第二言語を習得する際、誰もが誤用を避けられないだろう。わたしは日本語教師として、語彙から文法、運用に至るまで多くの誤用例を見てきた。また、自分もしばしば間違った日本語を使用している。誤用の原因は多岐に亘っているが、市川（2001）は日本語の誤用の要因に、母語干渉による誤りと母語干渉以外の誤りがあると述べている<sup>1</sup>。第二言語習得研究において、こうした母語が習得にネガティブに影響する母語干渉現象を「負の転移」と呼んでいる（迫田，1997）。

また、大河内（1992）は、日本語と中国語は同じ漢字で表記されるといっても、それぞれまったく異なる言語であり、違いがあっても当然だが、多くの場合借用関係にある、出自を同じくする漢字語であり、本質的には同じ語が異なる文化、言語の中で異なる運用をされてきたと指摘した。このように、中国人学習者は日本語の漢字を中国語の意味、品詞を通して理解しよ

うとする傾向があり、母語の負の転移により誤用を招きやすいと思われる。

したがって、本稿は母語の負の転移、中国語“一”の翻訳、日本語類義語の使い分け、多義語の扱いなど中国人学習者にとって誤用が多く見られる項目を例示しながら、分析を試みる。考察結果が日本語教育に多少なりとも寄与できればと思う。

### 2. 母語の負の転移

河住（2005）は、漢字には表意性があるため、認知の段階では理解の大きな助けとなるであろう。しかし、運用の段階では、品詞性や造語法、意味、ニュアンス上のズレから、文としてみると不適切な表現となる可能性があるを指摘している。そのため、本節では語彙の転移と文法の転移から中国人学習者の誤用を見ていく。

#### 2.1 母語語彙の転移

翻訳する際に厄介な問題の一つは学習者は母語の影響を受けやすく、日本語に該当する語彙があるかどうか、またその語彙の日本語での用法が中国語の用法と一致しているかどうかを考慮せず、直接中国語の語彙を使用することである。例えば、

（1）这样一个时机已经到来：不仅让我们，也让下一代，不论文学程度如何，都能遨游在中国文字之美中。

誤訳：私たちだけでなく、次の世代にも、文学の程度にかかわらず、中国の文字の美の中に遊

ぶことができるようになる時が来たのです。

正訳：我々の世代だけではなく、次世代のためにも、これまで文学的素養があるかどうかに関わらず、中国の文字の美の中に遊ぶことができるようになる時が来たのです。

学習者はよく中国語の表現をそのまま当てはめて、“文学程度”を「文学の程度」と訳してしまうため、いったい何を言っているのか、日本人はおそらく分かりづらいだろう。ここでは、「文学的素養」または「文学に親しんでいる」を使用すべきである。

(2) 直到《上海戏剧》的编辑来找我，人们才恍然大悟：小梁还真不简单呐！

誤訳：『上海演劇』の編集者が彼を訪ねてきて、人々は梁さんがなかなか大した人だということが悟った。

正訳：『上海演劇』の編集者が彼を訪ねてきて、人々は梁さんがなかなか大した人だということが分かった。

多くの学生は“恍然大悟”を翻訳する時に「悟る」という動詞を使っているが、「悟る」とは環境や関連知識を分析して判断した後、物事の真相を全て理解し、思想が昇華することを指す。ここで“恍然大悟”とはただ単に、「梁さんが本当に大した人だ」という事実を理解するという意味で、「分かる」を使えばいい。

(3) 因为孩子能否养成合理支配金钱的习惯，对其今后能否幸福地生活是至关重要的。

誤訳：子どもがお金を合理的に支配する習慣を身につけられるかどうかは、これから幸せに暮らせるかどうかに重要だからだ。

正訳：子どもがお金を合理的に使う習慣を身につけられるかどうかは、これから幸せに暮らせるかどうかに重要だからだ。

中国語の“支配”は「使用する、使う」という意味があり、金銭や時間と組み合わせて使用することができる。一方、日本語の「支配」は「諸国を支配する」「先入観に支配される」のように、ある地域や組織に勢力・権力を及ぼして、自分の意のままに動かせる状態に置くことや、ある要因が人や物事に影響を及ぼして、その考えや行動を束縛することを表し、主に抽象的なものを示し、金銭や時間と共起できない。学習者はそのような相違が分からず、母語の感覚で「支配する」を使用する傾向が見られる。

(4) 他主张建立人与人之间的健康关系。

誤訳：彼は人と人との健康的な関係を確立することを主張している。

正訳：彼は人と人との健全な関係を確立することを主張している。

日本語の「健康」は「からだに悪いところがなく、丈夫なこと。精神の働きやものの考え方が正常なこと」を意味し、主に体や精神の正常な状態を表している。一方、中国語の“健康”は「身心が正常に働くこと。物事が正常に機能して、しっかりした状態にあること」を意味している。例(4)のように、人と人との関係は中国語では“健康”で表せるが、日本語では「健康的な関係」より、「健全な関係」のほうが日本語らしい表現である。

(5) 怎样正确使用和保养录像机？

誤訳：ビデオの利用と保養はどうすればいいですか。

正訳：ビデオの利用とメンテナンスはどうすればいいですか。

日本語の「保養」は「からだを休ませて健康を養うこと」のほか、「目の保養になる」が示

すように「心をなぐさめ楽しむこと」も意味している。それに対して、中国語の“保養”は日本語の「からだを休ませて健康を養うこと」の意味に一致しているが、「機械・設備を手入れする」という日本語にはない意味も持っている。学習者がこうした違いを区別できなかったことにより生じた誤用である。

(6) 小妹妹，你不知道吗？

誤訳：妹さん、知らなかったの。

正訳：お姉ちゃん、知らなかったの。

中国語では、名前を知らない子供を直接「弟」「妹」と呼ぶことになっている。一方、日本語では名前が分からず、相手が子供である場合は、「お兄ちゃん」「お姉ちゃん」と呼びかけることがある。この例は両国の習慣の違いによる誤用である。

## 2.2 文法の転移

文法の面から見れば、両言語には品詞、自他動詞などの相違がよく見られる。中川（2008）によれば、中国語では形容詞として用いられ、日本語ではサ変動詞として用いられる同形漢語が難しいと指摘されている。

(1) 在老师面前我非常紧张。

誤訳：先生の前でとても緊張です。

正訳：先生の前でとても緊張しています。

(2) 在日本的生活很充实，我们都很开心。

誤訳：日本では生活は充実ですので、私たちはとても楽しい。

正訳：日本では生活は充実しているので、私たちはとても楽しい。

(3) 蒙古雨水少空气很干燥。

誤訳：モンゴルは雨が少なくて空気が乾燥です。

正訳：モンゴルは雨が少なくて空気が乾燥しています。

(4) 这次是初次来的日本，很兴奋。

誤訳：日本に来るのはこれが初めてで、とても興奮です。

正訳：日本に来るのはこれが初めてで、とても興奮しています。

上記の例から分かるように、日本語の「緊張」「充実」「乾燥」「興奮」はサ変動詞としているのに対して、中国語は形容詞である。学習者は品詞に関する母語の知識を日本語にそのまま転移したので誤用が生じた。そのほかにも、日本語教育現場には「満足、充滿、不足、貧乏、類似」など数多くの誤用例が見られる。

中国語の動詞は日本語と違い、「开始表演」（披露を始める）「表演开始」（披露が始まる）のように、動詞自体の形態による区別がなく、動詞と名詞の位置関係によって自他性を区別する。また、寺村（1982）が指摘するように「中国語の動詞は両用動詞が多いため」、中国人日本語学習者にとって、日本語の自他表現を習得するのが難しい。そのうえ、意味・形態レベルの使い分けが不明であり、日本人の物事に対する視点や捉え方が理解できないのも誤用につながると考える。

(5) 我不知道如何回答这个问题。

誤訳：この質問をどう答えたらいいか分からない

正訳：この質問にどう答えたらいいか分からない。

(6) 他从事古籍研究工作。

誤訳：彼は古籍の研究を従事する。

正訳：彼は古籍の研究に従事する。

(7) 请留意您的健康。

誤訳：ご健康を留意してください。

正訳：ご健康に留意してください。

(8) 同情弱者。

誤訳：弱い人を同情する。

正訳：弱い人に同情する。

「答える」は中国語に訳せば「回答」になる。中国語の「回答」は「及物動詞（目的語がつく日本語の他動詞に近いもの）」であるため、学習者は往々にしてそれを日本語の他動詞と誤用し、「ヲ」という格助詞を使ってしまう。また、「从事工作」、「留意健康」、「同情弱者」などは中国語では目的語が付くものだが、日本語の場合、「従事する」「留意する」「同情する」は目的語が付かない自動詞である。このように、自他に対する認識の違いから、誤用を生んだと考える。

また、日本語の自他動詞は日本人の物事に対する視点に関わる複雑なものである。自動詞は結果を強調し、特に自分の努力を相手に恩を著せたくない時に用いる。例えば、「コーヒーが入りました」と「コーヒーを入れました」、言うまでもなく自動詞文は日本語らしい表現で、日本人の性格に合致している。一方、他動詞は動作主の行為を強調し、特に自分が出来事に責任を感じる場合に多用される。例えば、「お皿を割ってしまいました」と「お皿が割れました」の場合、やはり他動表現のほうが責任感を感じさせて相手に納得されやすいと思う。

### 3. 中国語“一”の翻訳

中国語の「一」の翻訳法はかなり複雑であり、決して原文を忠実に訳せるものではなく、誤訳が頻出する。実際の訳文では、「不訳（あえて訳さない）」や他の表現で表すことが多い。

#### 3.1 “一”の不訳

数量詞は難しい学習課題として、よく誤用が見られる。例えば、

(1) 我有一个好办法。

誤訳：一つのいいアイデアが浮かんだ。

正訳：いいアイデアが浮かんだ。

(2) 中国語：昨天下了一场雨。

誤訳：昨日一場の雨が降った。

正訳：昨日雨が降った。

学習者は名詞の前に「一つ」や「一場」を付け加えることによって間違いを招いている。しかも、「一場」も中国語式の日本語で日本人には通じないだろう。これは、母語の中国語からの負の転移だと言える。

(3) 他是一个淘气的孩子。

誤訳：彼は一人のいたずらっ子だ。

正訳：彼はいたずらっ子だ。

「人」を表す場合にも、中国語では「他是淘气的孩子」に「一个」を付加することが可能であるのに対し、日本語では「彼はいたずらっ子だ」に「一人（の）」を付加すると不自然な文となる。この原因について、奥津（1986：76）は、「中国語では、名詞が不定・単数であれば、普通<一>を使い、複数の場合は数量詞を使わなくてもいい。つまり単数は有標、複数は無標なのである。一方、日本語では、単数・複数いずれも特定の標識はとらない。どちらかといえば、無標の名詞を単数ととりやすい」と述べている。つまり、日本語の訳文は、一つや一人など名詞を修飾する場合は数量詞を言及しないほうが自然なものになる。

また、「那个孩让父亲申斥了一顿后，变得听妈妈的话了。（あの子はお父さんに叱かれてから、お母さんの言うことを聞くようになりました。）」のように、日本語に訳す際、「一顿」のような表現が省略される。すなわち、中国語の“一”は動詞の後ろに来てそれを修飾する場合も、日本語に訳すと省略される傾向がある。

#### 3.2 「終止形+と」型

格助詞としての「と」は二つの動作がほぼ同時・連続することを表す。また、接続助詞

「と」はある事柄が成立すると常に決まった結果が現れるときに使う。たとえば、自然現象や習慣、機械の操作と結果などである。

(1) 气温一低, 樱花就老不开。

訳文: 気温が低いと桜はなかなか咲かない。

(2) 一喝酒, 脸就红。

訳文: 酒を飲むと顔が赤くなる。

(3) 一回家电话就响起来了。

訳文: 家に帰ると電話が鳴った。

(3) 仔细一看, 是前些日子被偷走的自行车。

訳文: よく見ると、このあいだ盗まれた自転車です。

例(1)の「と」は「桜はなかなか咲かない」事態が必ず起こるための条件「気温が低い」ことを提示する。例(2)は「酒を飲むとどうなるか」という課題に対して、「顔が赤くなる」という疑問に対する解答の順に内容が流れており、習慣性を表している。例(3)の「と」は、「帰る」と「鳴る」という2つの動作がほぼ同時に発生することを表す。いずれの「と」も中国語の“一…就”と対応している。

また、例(4)の「と」は前提と結果が連動していることを示す。「よく見た」結果、「このあいだ盗まれた自転車」という事実が判明した。このように、中国語の“一”はときには日本語学習の難関の一つである助詞「と」に対応するので、翻訳する際に非常にややこしい。

### 3.3 「ある～」型

(1) 有一天, 我们和老师一起到北海公园去玩。

誤訳: 一日、私たちは先生と一緒に北海公園へ遊びに行きました。

正訳: ある日、私たちは先生と一緒に北海公園へ遊びに行きました。

(2) 有一天早上, 小十郎家门前, 那只熊, 嘴里吐满了血倒在地上。

誤訳: 一日の朝、小十郎の家の前に、あの熊が、口いっぱい血を吐いて倒れていた。

正訳: ある朝、小十郎の家の前に、あの熊が、口いっぱい血を吐いて倒れていた。

(3) 假设有一次会议录下了一段视频。

誤訳: 一つの会議をビデオ録画したのがあるでしょう。

正訳: ある会議をビデオ録画したのがあるでしょう。

(4) 他在一家出版社工作过。

誤訳: 彼は一軒の出版社に勤めていた。

正訳: 彼はある出版社に勤めていた。

(5) 昨天, 有一个人在教室里念书

誤訳: 昨日、一人は教室で勉強しました。

正訳: 昨日、ある人は教室で勉強しました。

以上の例のように、中国語の“有一天、有一个人”は「ある日、ある人」に訳す。これは日本語では事物・人・時・場所などをはっきりさせず、または漠然とさしている時に「ある」を用いるからである。学習者はこのような翻訳ルールが分からず、よく「一日、一日の朝、一つの会議、一軒の出版社、一人」などのように誤訳してしまう。

## 4. 日本語類義語の使い分け

日本語の中で、多くの類義語は中国語に訳すと同じ表現になるが、ニュアンスが違う。ここでは、日本語教科書に出ているものを二例取り上げよう。

### 4.1 「きっと」「必ず」「ぜひ」

(1) 元旦は大変な人出で、バスがきっと混むでしょう。

訳文: 元旦出行的人会非常多, 公交车一定会很挤吧。

(2) 必ず鉛筆で書いてください。

訳文: 请一定用铅笔书写。

(3) 王さん、土曜日の夕方からぜひ来てください。  
訳文：小王，周六傍晚请一定要来啊。

上記の三例はいずれも初級日本語教科書に出ている文である。訳文から分かるように、「きっと」「必ず」「ぜひ」を中国語に訳すと、共に「一定」になるので、学習者にとってその使い分けは難しいと思われる。そのうえ、中国語の「一定」は「断定」「推量」「意志」「依頼」などいろいろな意味があり、使用範囲が広く、日本語と異なって人称、時制など使用上に制約がない。学習者はこの三者を区別するのが困難であり、誤用が多く見られると考えられる。

では、「きっと」「必ず」「ぜひ」は一体どのように使い分けしているのか。まず『新明解国語辞典』（1997）における記述を見てみよう。

「きっと」：見込み（期待）通りに何かが行なわれることについて確信をいまくことを表す。（p324）

「必ず」：ある状態について、それ以外のことが起こる可能性がまったく無いことを表す。（p265）

「ぜひ」：だれが、どのように論じようと、自分としてはこの実現を希望することを表す。（p775-776）

上記の解説から分かるように、「きっと」は話し手の確信や決意、また強い要望など主観的な判断を表すのに対して、「可能性が全くない」が示すように「必ず」は客観的な断定を表す。また、「ぜひ」は「この実現を希望する」主観的な願望が強い。このように、意味の面から三者の相違を理解できると考える。

## 4.2 「しゃがむ」「蹲る」「屈む」

(1) 中国の山奥に行くと、そこの人たちは椅子

があるにもかかわらず、食事の時にはお碗を手に持ってしゃがんでご飯を食べている。

訳文：来到中国的山区，看到那里的人吃饭时，明明有椅子却不坐，总是端着碗蹲着吃。

(2) 電子ボードに絶えず変動する株価を見詰めていた彼は、自分の持ち株がいきなり急落するのを見て、その場に蹲ってしまった。

訳文：他死盯着电子屏幕，看着那不断变化着的股价。当他看到自己所持有的股票的价格忽然剧跌时，一下子蹲在了地上。

(3) 上体は伸ばしたまま、両膝を曲げて屈む。それと一緒に両手の掌を軽く下へ押さえてゆく。目は前方を見る。頭は何も考えない。これは太極拳をする時の大事な姿勢である。

訳文：保持上身舒展，屈膝下蹲。同时双手轻轻向下压，双眼正视前方，什么也不要想。这是打太极拳时很重要的姿势。

「しゃがむ」「蹲る」「屈む」は大学三年の教科書に出ている類義語である。中国語に訳すと、いずれも“蹲”になる。腰や膝を折り曲げて上体を低くするという意味では三語とも共通しているが、「しゃがむ」はひざを曲げ腰を落とすからだ全体の動作を表す。「蹲る」はしゃがむよりも更に体を低くし、体全体を丸め頭を地面につけるような姿勢で地面に座る格好を表す。「物陰にうづくまる」「子犬がうづくまって寝ている」などと用いる。「屈む」は足腰をまげて低い姿勢をとることを表し、「前かがみの人」などのように前傾の姿勢をもいう。こう説明しても、中国人学習者にとって三者は同じ“蹲”であり、イメージが曖昧である。言葉で説明するのはなかなか学習者に理解してもらえず、図1のように提示すると、学習効果がかなりアップした。

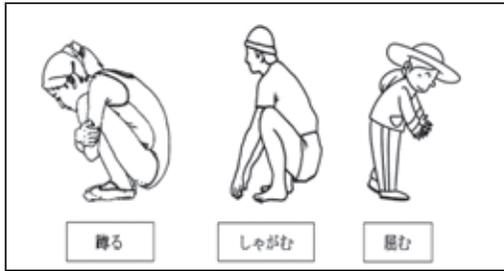


図1 「しゃがむ」「蹲る」「思む」

類義語に関する誤用は上記に挙げられた二例のほか、数多く存在している。例えば、

- (4) 人間は月面に着陸したことがある。(人類)
- (5) 未来に自分の子供も大学に行けるように…  
(将来)
- (6) ゆっくり生活するのは難しくなると考えます。  
(思います)
- (7) 一千万ポンドくらいの多額なら… (高額)
- (8) 18歳から自分で暮らさなければならなかった。  
(一人で)

これらの誤用例の中には、「人間（人類）」「未来（将来）」「考える（思う）」「多額（高額）」「自分で（一人で）」のように日本人母語話者であっても、その使い分けについての理由やルールを明確に説明することが難しいと考えられるものもある。

## 5. 多義語の扱い

日本語と中国語には、複数の意味をもつ多義語が非常に多く存在する。このような多義語の存在は、言語の曖昧性を生み、意味の理解に支障をきたす恐れがあるだろう。そのため、本節では中国語の“人家”と日本語の「かける」を考察することによって、多義語の習得に役立てようとする。

### 5.1 中国語の“人家”

『現代汉语词典』によれば、中国語の“人

家”は主に①人の住む家、②家庭、③嫁入り先、④他人、⑤家柄、⑥私（甘えて自称する場合）などの意味を持つ。それに対して、日本語の「人家」は中国語の①「人の住む家」の意味しかないので、中国語を訳す際に、その意味に相応しい訳語の選択は重要である。

(1) 这个村有百十户人家。

訳文：この村には百軒あまりの人家がある。

(2) 穷人家想发财只能靠铤而走险。

訳文：貧乏人の家では金持ちになろうと思えば、危険を冒して行くしかない。

(3) 我家闺女还没找到人家，你能不能给说个媒？

訳文：うちの娘はまだ嫁入り先が決まっていないから、仲人をつとめてくれない？

(4) 人家能做到的，我们也能做到。

訳文：人にできるなら、我々にもできる。

また、「富贵人家（富貴な家柄）」のように「家柄」を表す意味もある。そのほか、「老人家（お年寄り）」のように尊敬の気持ちをもってお年寄りを呼ぶ場合にも使われる。

### 5.2 日本語の「かける」

日本語の「かける」は典型的な多義語として、何十もの意味項目を持つ。「掛ける／懸ける」「駆ける」「架ける」「賭ける」「欠ける」などのように表記される。学習者にとって、この日本語の「かける」は本当に訳しにくいものである。例えば：

「掛ける／懸ける」：

- ・壁に時計をかける（墙上挂时钟）
- ・カーテンをかける（挂窗帘）
- ・毛布をかける（盖上毯子）
- ・眼鏡をかける（戴眼镜）
- ・腰をかける（坐下）
- ・エプロンをかける（系上围裙）
- ・ベールをかける（蒙上面纱）

- ・電話をかける（打电话）
- ・気合をかける（鼓劲儿）
- ・保険をかける（参加保険）
- ・税をかける（課税）
- ・熱湯をかける（澆热水）
- ・火をかける（点火）
- ・掃除機をかける（用上吸尘器）
- ・迷惑をかける（添麻烦）
- ・手間をかける（下功夫）
- ・心配をかける（担心）
- ・願いをかける（许愿）
- ・調味料をかける（撒上调味料）
- ・時間をかける（花时间）
- ・お金をかける（花钱）
- ・スライドをかける（放幻灯片）
- ・鍵をかける（锁门）
- ・賞金をかける（悬赏）
- ・わなをかける（设圈套）
- ・2 に 3 をかける（二乘以三）
- ・裁判にかける（打官司）
- ・天秤にかける（用称量）

#### 「欠ける」

- ・茶碗の縁がかける（碗缘残缺）
- ・メンバーがかける（成员不够）
- ・常識にかける（缺乏常识）
- ・礼儀にかける（失礼）
- ・月がかける（月缺）
- ・インパクトにかける（冲击力不足）

このほかにも、「橋を架ける（架桥）」「馬の群れが草原を駆ける（马群在草原上奔驰）」「トランプに金を賭ける（用扑克赌钱）」「命を賭ける（豁出命）」などが挙げられる。

上記で見てきた中国語の“人家”と日本語の「かける」はともに意味的な広がりを見せている多義語である。学習者はそれらを中国語あるいは日本語に訳すなら、相当な困難を伴うだろ

う。したがって、多義語を習得する際に、それを中心とする連語全体で記憶したほうが効率的だと思われる。

## 6. まとめ

以上、母語の負の転移、中国語“一”の翻訳、日本語類義語の使い分け、多義語の扱いなど中国人学習者にとって誤用の多いものを分析してみた。その中で、母語の負の転移において語彙と、品詞、自他動詞などの文法の転移から考察し、母語知識はいかに日本語学習に影響を与えるかを明らかにした。また、学習する難関の一つである中国語“一”の翻訳について、“一”の不訳、「終止形+と」型、「ある～」型という3つのタイプを提示し、中国語“一”を訳してみた。さらに、日本語の類義語に関して、「きっと」「必ず」「ぜひ」と「しゃがむ」「蹲る」「屈む」の二組を対象にその使い分けを明確にした。最後に、多義語に関して、中国語の“人家”と日本語の「かける」を取り上げて考察した。誤用の原因として、学習者が日本語の持つ独特の語彙や文法規則が理解できないこと、また母語の負の転移によるものもある。今後の日本語教育において、母語の負の転移をできるだけ回避し、学習者の頭の中の母語知識と導入された日本語の表現とのズレを指摘する努力が必要であると考えられる。

## 参考文献

- [1] 庵功雄等. (中上級を教える人のための) 日本語文法ハンドブック「M」.スリーエーネットワーク, 2001
- [2] 庵功雄.「漢語サ変動詞の自他に関する一考察」[J].一橋大学留学生センター紀要,2004 (11):47-63
- [3] 市川保子.日本語の誤用研究 [J].日本語教育通信, 2001 (40)
- [4] 王忻.中国人日本語学習者に見られる誤

- 用の研究—日中言語対照の視点から— [M] .北京：外语教学与研究出版社，2008
- [5] 大河内康究.日本語と中国語の同形語 [C] .日本語と中国語の対研究論文集，1992.10:15-19
- [6] 国広哲弥.意味論の方法 [M] .大修館書店,1982
- [7] 小森和子，玉岡賀津雄.中国人日本語学習者の同形類義語の認知処理 [J] .レキシコンフォーラム，2010:18-21
- [8] 佐治圭三.外国人が間違えやすい日本語の表現の研究 [M] .ひつじ書房,1992
- [9] 迫田久美子.日本語教育に生かす第二言語習得研究 [M] .株式会社アルク，2004
- [10] 中川正之.日中漢字語の記述的研究—とくに日中同形語をめぐって— [D] .神戸大学博士論文,2008
- [11] 文化庁.中国語と対応する漢語 [M] .大蔵省印刷局,1976
- [12] 森田良行.基礎日本語 2 [M] .角川書店,1980
- [13] 山田忠雄他編.新明解国語辞典（第5版） [M] .三省堂，1997
- [14] 林玉恵.「日華日漢辞典からみた日中同形語記述の問題点—同形類義語を中心に」 [J] .『世界の日本語教育』12 国際交流基金日本語国際センター，2002

---

1 市川（2001）は母語干渉以外の誤りは、（1）言語内の誤り：目標言語の構造そのものが困難であったり、既習の言語規則を未知の構造に適用しようとした際の誤り、（2）発達上の誤り、（3）誘発された誤り、（4）伝達方略に基づく誤り、（5）学習方略による誤り、などが挙げられる。

